



○目次

ポイ捨て問題

第一回ワークショップでは、ポイ捨てゴミへの関心や問題意識の高さが感じられました。車が止まつたり、減速したりすると窓から、弁当の空、ペットボトル、ビン、缶、タバコの吸殻などがポイ、ポイと捨てられる。散乱するゴミ。こうしたゴミを是非なくしたい。そんな熱い思いが活発な意見交流となりました。主な意見を紹介します。

○きれいを継続するには？

草の茂る所は捨てられやすい。捨てられたものを早く始末しないと、さらに増える。ゴミは、国道、県道、町道、河川敷、私有地と所かまわず捨てられる。やむなく、私有地は個人が拾う。

きれいを保つには？



しかし、公共地は所管する機関が常時拾うことはとても無理。町内一斉清掃できれいにしても、その状態が長く続かない。どうすればいいのか？

結局、われわれの生活する場だから、町民と町が一緒になって、公共地をきれいにし、汚さないという意識を高める他にないのでは？

○ゴミの処理？

ポイ捨てゴミを始末しようとしても、缶や不燃物が多く、集めた後どうすればいいのか困る。家庭ゴミと同じように分別するのはとても大変。それに、缶やビン、ペットボトルは定期的にししか回収されません。それまで、拾ったゴミをどうしたらいいのか。ポイ捨てゴミを出しやすいルールやシステムを考えてみては？

○少しづつ力を出し合い、姿を示す

一人や二人では、どれだけ頑張っても、広い地域のきれいを維持する大きな力にはならない。みんなが少しづつ力を出し合って取り組むことが大切。きっかけさえあれば、みんなできちまめるのでは？できる人が、まずやる。まわりの人に声をかける。そうして、取り組みが少しずつ広まり、行動を通して道徳心も高まる。看板やポスターもいいが、拾う姿が意識を大きく変えるのでは？



ワークショップでグループごとの話し合った内容を発表する